

牛久：学校周辺に見る自然

第24号 ひたち野うしく小(、ひたち野うしく中)

2020年5月26日発行

＜ 晩春の校庭の植物 ～⑤草本(離弁花類)その1.カタバミ科 ＞

こんにちは。開校11年目のひたち野うしく小校庭、4月末～5月の植物。今回から、花卉が何枚かにわかれている離弁花を咲かせる離弁花類の草を紹介します。まずは、カタバミのなかまから。



日本に昔からあるカタバミですが、漢字で「酢漿草」と書き、学名(属名)「Oxalis」もギリシア語の「oxys(すっぱい)」が語源だそうです。シュウ酸が含まれ、かむと酸っぱいです。酢で10円玉をみがいた人かと思ひますが、昔はこの葉で金属の仏具や鏡などをみがいたそうです。

葉や茎をかむと酸っぱい、カタバミ。



近くに、こんなカタバミもありました。葉が赤いのです。よく見ると、花卉のもとの方も輪を描くように赤みを帯びています。これは自然の品種でアカカタバミといいますが、それらの中間のようにうすく赤みを帯びた葉をもつウスアカカタバミもありました。

これも日本に昔からある、アカカタバミ。



最近多く見られるようになったのが、このオッタチカタバミ。名前の通り茎が立ち上がり、花もカタバミより大きめなので、「元気のいいカタバミ」に見えます。葉は半分開きかけた感じでたれ下がっています。北アメリカ原産の帰化植物なのです。

北アメリカ原産の、オッタチカタバミ。



最後に、中学校との間に咲いていたイモカタバミ。こちらは南アメリカ原産で、ジャガイモ同様、地下茎が栄養を蓄えてふくらんだイモ(塊茎)をつくるので、この名がつけました。校庭だけでも、いろいろなカタバミが見られますね。

【理科支援員：宮内】

南アメリカ原産の、イモカタバミ。